

平成27年度住民懇談会の報告



Q 地域おこし協力隊の補正費用について
A 運営会社では、企業や50人近い社員の居住や生活について相談等対応するスタッフが必要になります。総務省の事業で交付税措置があり、一定の費用内であれば町の負担がなく3年間は活躍いただける「地域おこし協力隊」制度を活用するためのものです。

Q 家賃の無料期間（平成28年度末まで）はいいが期間終了時に何社残っているか疑問である。シェアオフィスの賃料が都会なみに高くないか。

A 富士見町を気に入つて頂くため歓迎会等のセレモニーや意見交換会を行い、ゆくゆくは区にも加入して頂きたいと考えています。特に若い世代の方は富士見町で住むといった志を持つて来ている方が多く、実際ホームオフィスを利用している若い家族は区に加入しています。

Q シェアオフィスは住居を探さなくてはならない。町内に沢山ある空き家を有効に使うべきと思うが町の空き家対策はどうになっているか。

Q ○テレワークオフィスについて
A 町民の皆様に、町の一年間の事業成果と、今後の運営方針をご説明させていただくとともに、日頃の町政に対するご意見・ご質問をお伺いするための住民懇談会を、10月25日から10月29日までの間、町民センター、西山保育園、旧落合小学校、境小学校、本郷小学校の町内5会場で開催し、延べ305名（職員含む）の皆様にご参加をいただきました。（重複したご意見は割愛させていただきます）

各会場での意見・質疑の中から主なものをご報告します。

（重複したご意見は割愛させていただきます）

A テレワークオフィスに来られる方は東京に本社がありグループで来て頂き、始めは単身赴任になります。住居は約50名に推薦できるアパートを斡旋します。空き家については町内に分けて活用できるように取り組んでいます。

A 県の林地開発許可には町の意見書が必要になる。書類に瑕疵がない。間事業者、関連集落の方で納得がいくまで話し合いを重ね決定してきました。データの判断を含め全て町長が行うことは実質不可能であり、今までもやつていません。本来、町長がデータを見て決めるという立場ではあります。しかし意見は言えますが「せんが、問題も大きくなつてきておりでもらうようお願いできなか

A いるメガソーラーについて町長の考え方を確認したい。また、長野県の環境影響評価について、町から取り組んでもらうようお願いできなか

A 28haの山林を伐採してまでやる事業ではないと思つており止めて欲

しい気持ちはあります。しかし地権者と事業者の契約で行われることであるため、町としては住民の合意を十分とするよう指示を出しています。環境アセスメントについては、事業者にはお願

A 信州大学の地質学の先生にも28haの山林は水源の涵養林となつていいため、伐採してしまうと地下水への影響が出ると言われている。影響が出た場合、回復するには相当な時間が掛かってしまう。これ以上水量が減つてしまふと田んぼが出来なくなつてしまふので町としても対応して頂きたい。

Q ○過疎化・空き家問題について
A 空き家問題の対策は。

A Q 今年度、業者に委託し町内の空き家実態調査を実施し、AからDのランク分けを行いA、Bランクの使用可能な家は持ち主を特定し許可をとり、有効活用していきたいと考えています。国では「空き家対策特別措置法」という法律により行政代執行が出来るようになります。集落説明による住民同意を得る中で、学識経験者同士の討論により意見集約していくかないと結論が出ない場合があるのでないかと

思います。
Q ○過疎化・空き家問題について
A 空き家問題の対策は。

Q お互い情報を出し合い双方が納得する状態で決めていかないといけないと思います。素人が感覚的に推測するのではなく地下調査を行い、流れ方や水量が減少している理由を解明する必要があります。集落説明による住民同意を得る中で、学識経験者同士の討論により意見集約していくかないと結論が出ない場合があるのでないかと

◎河路地区活性化について

Q 町内で河路地区が取り残されている感がある。地域の特性を活かせば発展する可能性はあると感じている。広くアイデアを募集し河路の発展を考え欲しい。

A 富士見町は歴史と文化の町として井戸尻や甲州街道が栄えた時代があり、功績を残した偉人も誕生している。「第3の観光シナリオ」として山梨大学の先生に入つて頂き、町の中に宝を歩いて巡る旅を企画していくまです。甲州街道を歩き、お寺や学校、岩本記念館、森山汀川の史跡巡り等、歴史ある町として大事にしながらもう少し力を入れていかなくてはと思っています。旧落合小学校の活用については現在、案として、町に倉庫がないので2階を町の重要な歴史の遺産を保存する場所に、1階は耐震的にも安全で駐車場も確保できるため落合保育園を移動し、体育館は従来どおり地域の方に利用してもらうことで有効利用していく方向を考えていますが、皆さんと議論しながら計画していく予定です。

A 恋月荘の移転建設計画について
Q 恋月荘の移転建設計画について交通状況等の概要説明が欲しい。

9月に新聞報道があり、平成28年春工事着手、28年度中完成、平成29年4月オープンといった計画でしたが、諒訪広域連合議会で報告されました。前協議等、まだ調整が進んでおらず町見町環境保全条例による開発行為の事況です。建設計画が来た段階で通学路に関しては子ども課と協議して頂く事

になりますが、地元や学校へも説明をして頂くよう、町から事業者である厚生連さんにお伝えします。

◎未満児保育期間延長について

Q 未満児保育の受け入れ期間について、町は産後8週間としているが、子育て支援の充実を図る為、近隣の市町村の状況を踏まえ3~4ヶ月への期間延長を検討してもらえないか。

A 6市町村横並びのサービスを提供していきたいと考えていますので検討させて頂きます。また、一時保育、ファミリーサポート、すずらん保育園等も併せてご利用いただきたい。※その後、「産後出産月を除く3ヶ月、多胎児は産後出産月を除く4ヶ月」までに延長されました。

◎夢の森公園計画について

Q 夢の森公園計画については幅広くいろいろな方の意見を取り入れて頂きたい。

A 公園計画については教育長がリーダーとなり庁内会議を始めたところです。一年間時間をかけて世代の皆さんや各グループの意見を十分反映させ計画していきたいと考えています。

◎CCRCについて

Q CCRCによる高齢者の受け入れ体制や、受け入れる側への支援、高齢化率が上がることによる弊害についてどう考えているか。

A 介護報酬が下がる事や介護士不足は全国的な課題ですが、相手先が人材を連れてくる見込みもありますし、高原病院とも話す中で外国人労働者により補充する事も考えられます。医療費については元の市町村負担になるた

め、財政的な問題は起こりません。受け入れの気持ちや体制を整え町民との交流を通じて馴染んでもらう事が重要になります。町に都会村を作つてはならない為、CCRCでは退職者や年金等も沢山ある方に来ていただく事で経済的にはプラスになります。人口が維持でき、町の負担が増えず、収入が増えていく事を計画している状況です。

Q 介護報酬の引き下げによる慢性的な人手不足などの状況に対し、町の支援は考えていないか。CCRCは直ぐに介護が必要な方を受け入れるという誤ではなく、国は「60才代の比較的若い段階から20年くらいは地方で元気に暮らしていく」という想定をしていました。だから、その中からやがて介護保険を使っていく」という想定をしていました。事業者の計画と町の考え方が一致しないとこの事業は進んでいません。詳細については事業者が出てきてからの段階になります。地域で介護職員を大勢採用しなくてはならないような事業者であった場合はご遠慮いただくなさると思います。即、富士見町や諒訪地域の介護事業に影響を与えるようなことは想定していません。

A 各施設に対する独自支援については、6市町村内においても、富士見町でも検討はしておりません。

この他にもたくさんの貴重なご意見ありがとうございました。詳細については町ホームページをご覧ください。皆様からお寄せいたいたご意見を参考に、これからもよりよい町づくりを進めてまいります。

◎ライフラインの長寿命化について

Q ライフラインの長寿命化計画についてはどうなっているか。

A 今年度「みずみち計画2015(下水道)」を作成中で、今後の施

設活用や災害時の復旧計画についてまとめているところです。町内にある6つの下水処理場の内4つの集落排水事業については順次公共下水道に統合する工事を始めています。他の2つについては年数が経つていてもあり、県からもう少し管理をしながら使用するよう指示されていますが、近い将来は接続を行う方向です。災害時、多くの施設を抱えているリスクも高く維持管理費も掛かってしまうため、国庫補助を使いながら整備していきます。町道の主要幹線88kmの傷み具合について昨年度調査を行いました。「早急に整備が必要な道路28km」、「早急ではないが整備が必要な道路40km」、「直ちに整備を要しない道路20km」でした。まずは、早急に整備が必要な28kmと早急ではないが整備が必要な40kmを10年間で整備していきたいと考えています。

JRに掛かる13橋は今年度から4年間で整備していきたいと考えています。橋梁の長寿命化については、中央道に掛かる13橋は全て着手されています。JRに掛かる13橋は今年度から4年間かけ調査を行い、工事は平成29年度から13年間で整備していきます。その他159橋については昨年から調査を始めしており、あと4年で全ての調査が終了します。年間6千万円を上限に長寿命化を図り、メインとなる橋梁は13年で整備し、残りの橋梁は耐用年数と調査結果を見て長寿命化計画を立てて参ります。

◎ライフラインの長寿命化について

Q ライフラインの長寿命化計画についてはどうなっているか。

A 今年度「みずみち計画2015(下水道)」を作成中で、今後の施